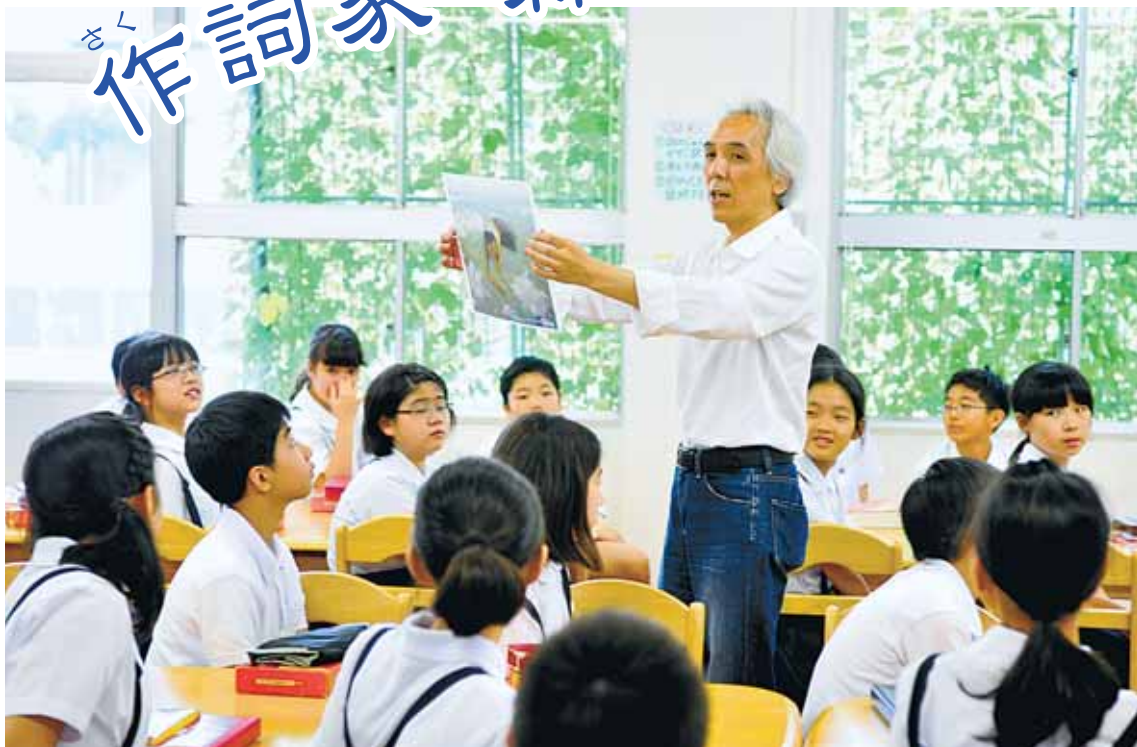


# 作詞家・森浩美さんが出張授業

森さんが用意したたくさん教材に、教室では何度も笑いが起こりました



東京都台東区にある忍岡小学校(吉藤玲子校長)は今年創立140年を迎えます。これを記念して6年生の児童が歌詞をつくることになりました。6月9日に日本音楽著作権協会(JASRAC)の協力で、出張授業が行われ、SMAPなど人気アーティストの歌詞を数多くつくってきた作詞家の森浩美さんを先生に招き、歌詞や文章をつくるためのヒントを教えてくださいました。【写真・和田貴光】



ジャスラだよ ようしくね!

## 未来に残る歌詞をつくらう

### 自分の頭で考えよう

詞や文章をつくるためには、どうしようもない発想すればいいのでしょうか。

森さんが1枚の写真を取り出しました。「これは何か? 何かの一部です」「ぜんまい」「かたつむり」クラスの子どもたちが次々に答えます。「これは、ペルーにある『ナスカの地上絵』です。『何のために広い土地につくったと思いますか?』森さんが質問を続けます。「地球外生命と通信するため」「遊びか趣味」「宇宙人が仲間に安全な場所を知らせるため」。いろいろな考えが飛び出します。「実は答えはないし、現在も解明されていません。重要なことは、自分の頭で考えることです。事実一つでも、その事実の見方はたくさんあります」と森さん。たしかに、新聞の記事をくらべてみると、同じニュースでも、書き方が少しずつ違って、いろいろな見方ができることがわかりますね。



ナスカの地上絵を見せる森さん

また、森さんは、「自分で考えたことを、怖がらずに言ってください。『言おうと思っただけ』でも構わない。作文のときでも、書く前から『こんなことを書いたら、どう思われるだろう』と余計なことを心配しなくていいんです」と、自分で考えること、言葉にするこの大切さを強調しました。

### 知っている言葉の増やし方

授業の後半は、文章をつくる時に必要な言葉を増やすトレーニングとして、連想ゲームをしました。「赤」という言葉から何を連想しますか? 3分の間に「夕日」「すいか」など、思いついた言葉をどんどん書き出していきませう。写真。



「男女関係なく特に仲のよい学年です」と担任の先生が話す、6年生の生徒たち



### ジャスラ プロフィール

JASRACの公式キャラクター。11月18日生まれ。特技はオカリナ、DJ。音符の帽子をかぶっているのに、時々「おたまじゃくし」とまちがえられます。

本文で紹介した連想ゲームのやり方はJASRACのHPで見ることができます。

ぜひアクセスしてみてくださいね。

音楽で自由研究(JASRAC PARK)

<http://www.jasrac.or.jp/jasracpark/research/>

### ●著作権とは

音楽や小説、絵画などは、一生懸命自分の頭で考えてつくられたものです。だから、人の作品を使うときには、つくった人に「使ってもいい?」と聞いて、許可をもらってから使うというルールがあります。これを「著作権」と言います。

### ●日本音楽著作権協会(JASRAC)とは

作詞家・作曲家など音楽をつくった人から頼まれて、音楽を使う許可を出し、その時に受け取った費用をつくった人に届ける仕事をしています。

### 森浩美さんプロフィール

作詞家。SMAP「青いイナズマ」、KinKi Kids「愛されるより愛したい」など約700曲の作詞をしています。また小説や漫画の原作をつくるなど幅広く活動をしています。

### 東京都台東区立忍岡小学校

1875(明治8)年に開校。上野動物園や多くの文化施設がそばにあることを生かした校外学習をたくさん行っています。